

水門・陸閘等の安全かつ効果的な管理システム構築に向けた考え方  
(ガイドラインの補足資料)

(本資料の位置づけ)

現場操作員の安全を最優先にした管理システムを構築する観点から、  
・水門・陸閘等の整備・管理のあり方(検討委員会提言)  
・水門・陸閘等管理システムガイドライン  
に示された考え方をわかりやすく、簡潔に整理したものです。

1. 水門・陸閘等の整備・管理のあり方(検討委員会提言)〈H25.4〉

- 現場操作員の安全確保に資する取組の促進(自動化、遠隔操作化等)
  - ・ 自動化、遠隔操作化の必要性、緊急性が高い水門・陸閘等について、海岸管理者は積極的に検討。
  - ・ 水門・陸閘等の老朽化対策(更新)の実施とあわせてフラップゲートの活用等効率的に低コストで自動化できる施設改良を検討。
- 水門・陸閘等に係る技術開発・新技術の適用促進
  - ・ 新技術の普及に向けた仕組み作りに取り組む必要。
  - ・ たとえば、高知県では、防災の取組の推進と防災関連産業の振興を目的として、新事業分野の公的調達を推進する新たな制度を導入した。これにより、地元企業による太陽電池とエアーモーターの組み合わせによる自己完結式の陸閘開閉装置(導入事例有)や、携帯電話やリモコンで遠隔操作可能な陸閘開閉装置の開発が促された。このような先進的な取組が参考となる。

2. 水門・陸閘等管理システムガイドライン〈H25.4 改訂、H27.4 改訂〉

- 水門・陸閘等管理システムの構築にあたっては、現場操作員の安全確保を最優先とすることを基本として、地域における水門・陸閘等の開口部全体の管理のあり方を検討(別紙フロー)。
- 特に、想定津波到達時間が極端に短いなど緊急性が高い水門・陸閘等においては、迅速に水門・陸閘等を閉鎖するために、自動化・遠隔操作化が必要。

## ガイドラインにおける施設改善の基本的考え方

